

すぎなみ大人“熟”してる？

J u k u s i t e r u ? T I M E S ' 1 3

平成 25 年 9 月 2 日 発行

発刊元：塾熟出版（事務局）

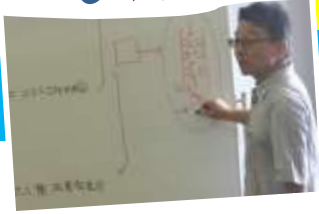
東京都杉並区梅里 1-22-32(社会教育センター内) TEL 3317-6621 FAX 3317-6620

VOL.8

だがしや楽校を開こう！ 「だがしや楽校」を地域で開こう③

自主活動へ向けて！

8月26日
月曜コース



◆講座が終わったら何をしたい？

これまでの講座では、まちの中で「だがしや楽校」を開くことを目標に取り組み、今回は商店街での「だがしや楽校」についてのふりかえりを行った。今回はそこから一旦離れ、まず、卒業後の自主活動で“自分が何をしたいのか”をグループで考えてみた。

その中では、「障害者に対する理解を深めることをしたい」、「仕事での経験を活かして講座をしたい」など、各人それぞれがやりたいことが挙げられた。



← ↓ 時に雑談になりながらの
肩の力を抜いた話し合い



◆自分×地域＝？

それでは、卒業後に“自分がこれからしたいこと”をどう実行していく？ここで本日 2 回目、グループになっての話し合い。松田さんからは、「自分がしたいことと地域生活とのつながりはどこにあるだろうかということとを特に意識して考えてみましょう」と話し合いについて視点のお話も。

話し合いの中では、「そもそも地域で何かやる必要ってなんだろうね」という根本に立ち返った話や、「一人ひとりの持ち味を活かして自主講座を知人やお客さんと呼んで開きたい」と、より具体的な活動についての話も。

何をするにしても、自分個人の学びや楽しみで終わってしまってはもったいない。けれども、初めから地域活動をする必要はなく、“自分のやりたいこと”と“地域や社会のためになること”をどう両立していくか、ということ自らが考えていくことこそが大切なのだ、話し合いを通じて見えてきた！（坂本）

□ゆっくり、ぼちぼち行きましょう

坂本（以下、坂）：「最近の様子を教えてください」

大岸（以下、大）：「大人塾で同期から学んだバルーンアートを活用して地域のお祭りなどに参加しています。」

坂：「あなたにとって、だがしや楽校とは？」

大：「自分を“みせる”ものがないと考えていた自分にも、仲間は手作りなど多くのことを教えてくれました。これが新たな人生を歩むきっかけになりましたね。」

坂：「読者に向かってひとことどうぞ！」

大：「成果を求めるのではなく、ぼちぼち楽しい人生と一緒に歩みましょう。」

「だがしや楽校」の考え方の 5 つの視点

《自主活動に向けて》

- ① 1 人のやりたいことをプロデュース
- ② おしゃべりの時間（話し合い）
- ③（その時限りも OK な）持ち味を活かした講座
- ④ 講座ふりかえりの作文の読み合い（記録集編集）
- ⑤ だがしや楽校を開く

⇒自分の関心に沿って考えることが大事！

25. 08. 26 松田提案より

《コラム》だがしや楽友たちは今

これまでのだがしや楽校を卒業された様々な持ち味を持った方々に、筆者がインタビューするこのコーナー。

卒業生から、みなさんに向けた生の声をお届けします。

「この人と一緒に何かしたい！」という方は事務局まで！

5 回目は、24 年度のだがしや楽校を卒業された、大岸さん。他の方の持ち味を学び合うことが得意な大岸さんは、現在ゆうゆう館や地域のお祭りで、同期の大人塾生から学んだバルーンアートのワークショップをされています。

さて、この方にとっての「だがしや楽校」とは？



◆すぎなみ大人“熟”してる？の発行にあたって◆

この新聞は事務局スタッフの独断と偏見と多少の事実に基づき作成しております。